

(社)日本原子力学会 標準委員会 研究炉専門部会
第1回 放射線遮蔽分科会 (R2SC) 議事録 (案)

1. 日時 平成13年1月19日 (金) 13:30~16:30

2. 場所 エネルギー総合工学研究所会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 平山 (主査), 三浦 (副主査), 山野 (幹事), 石川, 上松, 小田野, 近藤, 坂本, 清水, 秦, 辻,
林, 林田, 播磨, 見上, 森島 (16名)

(欠席委員) 佐藤 (1名)

(常時参加者) 黒澤 (1名)

(傍聴者) 安納 (1名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

R2SC1-1 標準委員会の活動状況について

R2SC1-2 委員名簿

R2SC1-3 標準委員会規定

R2SC1-4 標準委員会運営内規

R2SC1-5 標準委員会専門部会運営通則

R2SC1-6 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説

R2SC1-7 標準委員会の活動基本方針

R2SC1-8 標準作成手引き

R2SC1-9 標準原案の審議に関するガイドライン

R2SC1-10 日本原子力学会標準制定スケジュール (案)

R2SC1-11 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称

R2SC1-12 研究炉専門部会の活動方針 (案)

R2SC1-13 研究炉専門部会「放射線遮蔽設計データの標準化」に関する分科会設置につ
いて

R2SC1-14 他の標準データ・マニュアル・規格との関係

参考資料

R2SC1-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、17名の委員中、16名の委員の出席があり、決議に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 経緯の説明

事務局より標準委員会設立に至るまでの経緯及びこれまでの活動状況の説明があった。なお、事務局より出版した標準に記載されているデータの使用については、有償ではないこと及び出版した標準の著作権は原子力学会に帰属し、学会誌掲載論文と同様な扱いになることが説明された。(R2SC1-1)

(3) 出席者の紹介

出席者よりそれぞれの自己紹介があった。(R2SC1-2)

(4) 標準委員会規約類の説明

事務局より標準委員会規定、同運営内規及び同専門部会運営通則の説明があった。なお、標準の公衆審査において、十分な意見交換を図るため、一般公衆意見の委員会審議結果に対する聴取を納得できるまで行うべきではないかとの意見に対し、事務局より、規約上聴取は行わないことと定めているが、委員会が公開で、所定の手続きにより参加頂くことが可能であり、常に意見交換の場が確保されている旨の説明があった。(R2SC1-3,4,5,6)

(5) 主査の互選

標準委員会専門部会運営通則第7条第1項(4)に従い、出席委員全員による無記名投票が行われた。その結果、平山委員が主査に選出された。(選任基準 9票以上; 17名の分科会委員総数の過半数以上)

投票結果: 平山委員 得票 13票

秦委員 // 1票

坂本委員 // 1票

清水委員 // 1票

(6) 副主査の指名

平山主査より、三浦委員が副主査に指名された。

(7) 幹事の指名

主査、副主査の協議により、山野委員が幹事に指名された。

(8) 標準委員会の活動基本方針の説明

事務局より標準委員会の活動基本方針、標準作成手引き、標準原案の審議に関するガイドライン、日本原子力学会標準制定スケジュール(案)及び標準委員会委員会関連欧文名称及び略称の説明が行われた。

標準委員会の活動基本方針に関し、出版する標準を販売せず、関係者からの寄付等で運営すべきではとの意見に対し、事務局より、中立性の観点から原則的に販売収入、講習会等の企画収入によって独立採算を目指している旨の説明があった。

なお、本意見を事務局より委員会等へ伝えることとなった。(R2SC1-7,8,9,10,11)

(9) 研究炉専門部会の活動方針(案)の説明

事務局より研究炉専門部会の活動方針(案)の説明があった。(R2SC1-12)

(10) 分科会活動の進め方について

坂本委員からの分科会活動の進め方についての説明後、議論が行われた。(R2SC1-13,14)

- スケジュールは、本分科会で何を扱うかにより柔軟に考えていきたい。
- γ 線バルク遮蔽の線量評価データについては、点等方線源に対するデータが米国原子力学会標準(ANSI/ANS)にある。平板垂直入射線源なども加えても良いのではないか。
- 高エネルギー中性子に対するデータを加えることに対しては、高エネルギー領域では計算コードを使用する機会が多く、簡易計算のツールに対するデータ整備のニーズは少ないのではないか。
- 20MeV以上の電子線に対する中性子遮蔽データが重要ではないか。
- 加速器の遮蔽についても本分科会の検討項目であり、2、3年目の課題として取り上げたい。
- 本分科会の対象範囲及び取り組む時期を検討するため、例えば γ 線遮蔽ハンドブックの目次に対して必要性・優先度の星取り表を作成し、系統的に考えるべきではないか。
- 本分科会の課題は、標準データの整備と妥当性の判断である。標準データの整備は、分科会委員を専門分野別に分担して行うべきである。
- 検討対象は、原子力施設に限定せず放射線施設とすべきであり、医療分野も含める。
- γ 線ビルドアップ係数はバルク遮蔽データの一つの概念としてまとまっているが、スカイシャイン線量に対するデータは共通的な概念が決まっていないのではないか。教科書にも明確には書かれていない。
- データとしては最新版として標準化できるのではないか。但し、評価手法、意味までを標準化できるかは検討が必要である。
- ある程度まとまっている γ 線ビルドアップ係数を検討しながら、スカイシャイン線量データを平行して検討するなど、各々の分野で検討状況が異なっても良いのではないか。
- 標準として、データ集に加え簡易的なツールをつけるイメージを考えては。学会として、例えば、書籍にCD-ROMをつけることまで行うかなどについては検討が必要である。
- データ整備の作業と標準委員会での評価作業は区別すべきである。個々の機関に属する個人がその成果を標準委員会に持ち込み、標準委員会が評価を行うのではないか。但し、計算コードとデータは、各機関が著作権を持っている場合がある。
- 標準化された内容は、Copy Rightが原子力学会へ移る。学会誌における論文と同様な扱いである。(次回、事務局より標準の免責条項、著作権を提示する)
- アルベルトデータの検討とは、ストリーミングの計算コードの検討を含めて考えている。
- JIS等で既に規格化されたものについては利用する。そのための、調査を行う。
- ユーザー側の遮蔽データに対するニーズが分かれば、標準化作業の優先度を決めやすいのではないか。
- 新しい遮蔽データを出すためには、定義から確定する必要がある。

等の意見があった。平山主査より、対象は放射線施設全般とし、様々なデータの集大成を目的に、個々の機関等が作成したデータに対して本分科会にて適切な判断を行うことが提案され全会一致で承認された。

そこで、本分科会の検討範囲と当面2年間の役割分担等を検討するため、各委員が関係している分野より、調査を含めた課題、問題点、スケジュールについてR2SC1-13を参考に整理し、2月26日(月)までに山野幹事まで送付する。整理の後、事前に各委員へ配布し、次回分科会にて検討を行うこととなった。

また、 γ 線ビルドアップ係数の検討を行う前提条件として、対象とする光子の断面積と線量換算データについて坂本委員より提案を受けることとなった。

(11) その他

黒澤氏((株)ガイブリンクフォメーションセンター)を常時参加者とするを全会一致で承認した。

(12) 今後の予定

第2回分科会を3月5日(月)午後開催することとし、場所は別途事務局より連絡することとした。(後日、原子力学会会議室にて10時より開催する旨連絡)

以上